メガソーラーは野鳥の生息地となり得るのか？
～岡山県内の事例～

多田 英行 （日本野鳥の会岡山県支部）

※発表者不在の際は、v04075e@yahoo.co.jp までご遠慮なくご質問などお知らせください

1. 本発表について

・地球温暖化の防止は、生態系を保全するうえで重要な課題となっている。

・大規模太陽光発電施設（メガソーラー）は、温暖化対策の1つとして注目される一方で、生息地の開発による鳥類への影響が懸念されている。

・メガソーラー事業地での鳥類の保全はできるのか？　本発表では岡山県内のメガソーラーの事例について紹介する。

2. メガソーラーの紹介

① 山地(造成地)

環境: 森林

規模: 約400ha

パネル下: 裸地

② 平地(未造成地)

環境: 草地・湿地

規模: 約270ha

パネル下: 草地

③ 池(水上)

環境: 池・ヨシ原

規模: 約9ha

パネル下: 水面

2. メガソーラーの紹介(山地:造成地)

＜環境の特徴＞

事業地内は地表が造成されて砂利や裸地となっており、所々に背丈の低い草が生えている。

周辺には森林・人家・小川がある。

＜鳥類の特徴＞

事業地内の種数:約10種

繁殖行動:ヒバリ・コチドリのさえずりを確認。

採食行動:ハクセキレイ・セグロセキレイが地表で採食していた様子。

監視行動:ホオジロ・ジョウビタキが発電パネル上に止まり、なわばり内部の監視をしていた様子。

休息行動:ハシブト・ハシボソガラスが発電パネル上に止まっていた。コガモ・カルガモが調整池で休んでいた。

周辺環境との比較:事業地内では森林性鳥類がほぼ見られず、種数も個体数少なかった。

2. メガソーラーの紹介(平地:未造成地)

＜環境の特徴＞

事業地内は地表の造成はあまりされておらず、背丈の高い草地が維持されている。

周辺にはヨシ原・水路・疎林・人家がある。

＜鳥類の特徴＞

事業地内の種数:約25種

繁殖行動:ホオジロ・オオヨシキリ・セッカ・キジ・ヒバリのさえずり等を確認。

採食行動:ノスリ・モズが発電パネル上から地表の餌を狙っていた。

休息行動:トビ・ハシボソガラス・キジバト・ツグミ・ハシボソガラス・アオサギ・ダイサギ・カルガモなどが発電パネル上で休んでいた。

周辺環境との比較:上空を利用して採食するツバメ・オオタカ・チュウヒの利用は少なく、発電パネル下の草地にはヨシ原の冬鳥(オオジュリンなど)は少なかった。

2. メガソーラーの紹介(池:水上)

＜環境の特徴＞

事業地内は発電パネルが湖面に浮いており、発電パネルの隙間から水面が見える状態。

周辺には池・ヨシ原・疎林・人家がある。

＜鳥類の特徴＞

事業地内の種数:約20種

繁殖行動:繁殖期未調査のため詳細不明だが、繁殖可能な環境は無いと思われる。

採食行動:アオサギ・ダイサギ・コサギ・カワセミが発電パネル上から水面の餌を狙い、ハクセキレイ・セグロセキレイが発電パネル上の虫を捕っていた。

休息行動:トビ・ハシボソガラス・マガモ・カルガモ・ヒドリガモ・ヨシガモ・オオバン・バン・カワウなどが発電パネル上で休んでいた。

周辺環境との比較:ツバメ・ミサゴは見られず。カイツブリ・ミコアイサも見られず、発電パネル下の水中を採食場所として利用していない可能性あり。

3. 鳥類相の比較

・メガソーラー事業地内の鳥類相は、周辺環境の影響を受けつつも、発電パネル下の状態によって大きく変わる傾向があった。

・陸地のメガソーラーでは、発電パネル下が裸地の場合は利用種数が少なく、ヨシなどの背丈の高い草地の場合はモズ、セッカ、キジなど多くの種数が利用していた。

・水上のメガソーラーでは、発電パネルがカモ類などの多くの鳥に休場として利用されていた。

4. まとめ

メガソーラー事業地内では、

・野鳥の繁殖行動、採食行動、休息行動が観察され、非森林性の一部の鳥類に利用されていた。

・野鳥の種数や傾向には、発電パネル下の環境状態が強く影響している傾向が見られた。

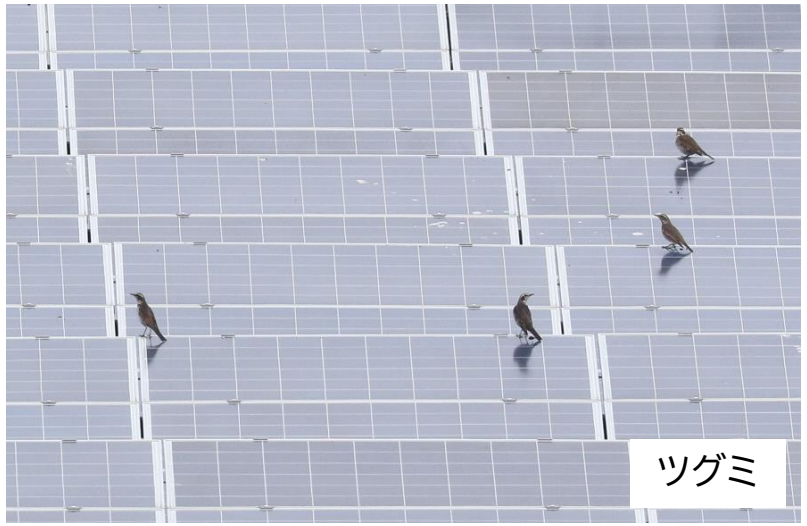
・開発前と比べて鳥類の多様性は低下するものの、発電パネルの設置方法によっては開発の影響を軽減できる可能性がある。

※発表者不在の際は、v04075e@yahoo.co.jp までご遠慮なくご質問などお知らせください

5. おまけ(発電パネル上の野鳥 -陸地-)

キジ

ノスリ


ツグミ

ダイサギ

5. おまけ(発電パネル上の野鳥 -水上-)

アオサギ

ヒドリガモ・マガモ

ハクセキレイ

カワウ

H